令和五年度　第七十七回卒業証書授与式　校長式辞

令和六年三月。地図上にその地名がどこにもない、東安地区。安八百梅園の梅は見事な花を付け、墨俣一夜城の桜は爆発的な開花を今か今かと待っています。この地に、春がやってきます。私達を取り巻く自然環境は、力強く動き、季節は確かに移り変わっていきます。この、春を迎える何とも言えない気持ち、それは新たな出会いと別れをまた一つ味わう、喜びと悲しみの気持ちなのかもしれません。

卒業証書授与式の挙行にあたり、学校管理者、安八町長　岡田　立様、東安中学校組合議会議員　関谷和彦様、大平文雄様はじめ、東安中学校組合教育委員会の皆様、学校運営協議会の皆様方をご来賓としてお招きすることができました。本当にありがとうございます。また、本日ご出席の狩谷ＰＴＡ会長様をはじめとする保護者の皆様には本校の教育活動にご理解ご支援をいただき、本日、無事卒業生を送り出せますことを深く感謝しております。

改めまして保護者の皆様方、お子様のご卒業おめでとうございます。十五年前産声を上げた日から、この日に至るまで様々な出来事が刻まれていらっしゃると存じます。目の中に入れても痛くないほどかわいかった我が子。そんな我が子が、思春期を迎え、生意気なことを言ったり、憎まれ口をたたいたり。それでもそんな我が子が悩むと、自分のことのように心を痛め、よりよい解決に向かうよう、じっと見届けられたと思います。常に、お子様を無償の愛で見守り続けられ、今、ここに義務教育九年間を終えることが出来ましたこと、心よりお祝い申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、中学校生活の三年間のうち、二年間をコロナ禍の中で過ごした学年です。小学校の六年時に休校措置がとられ、新しい学級の仲間と生活することができませんでした。学校に通えるようになってからも、これまでの当たり前は、当たり前ではなくなっていました。そんな皆さんを思い出すとき、私の頭に思い浮かぶのは、「誰一人置いていかない小集団の学び合い」と「仲間を思い、心痛む感受性」です。

令和三年、東安中学校に着任したとき、真っ先に感じたのは、生徒はおとなしく、落ち着いた雰囲気であること、静かに授業を受けることができるということでした。その反面、反応する、表現することには弱さがあり、全員挙手などはあるものの、一部の生徒の発言で授業が進み、多くは傍観者となっていました。折しもコロナ禍によるさまざまな制約があり、授業は、いわゆる一斉授業に逆戻りしている感がありました。生徒の様子から「授業が楽しい」とは思っていないだろうと感じました。

三年後、令和五年度に、組合教育委員会指定の教育研究発表会があることがわかっていました。一年生に入ってきた皆さんが三年生になった時に、学力が向上していること、自己肯定感が上がり、授業が楽しいと言える子が増えていること、研究発表会で素晴らしい学びの姿を見せることを目標に、授業改革に挑んでいきました。

皆さんは覚えていますか。授業改革の最初となる研究授業は、二年生も三年生もいる中、皆さんの学年で行われていたことを。学年主任の松岡先生による、理科の授業でした。この授業で得られた学びの事実を元に、東安中の小集団による学び合いが確立していったのです。

私たち教師は、授業が楽しくなるようにとたくさん考え、実践しました。しかし、実際に学ぶのは生徒である皆さんです。それぞれの学級で、学び合いを高めるための人間関係づくり、キャンペーンなどの取組を工夫しました。生徒会役員と、校長室で、どうやったら、できた、わかった、広がった、深まった、と言えるのかを議論もしました。

学校生活に大きな割合を占める「授業」。この授業を高めていくには、仲間を思い合う関係性が不可欠です。誰一人置いていかず、必ず授業内で出力する。相手の話を丁寧に聴く。課題解決に向けて、仲間と探索的に会話する。これが見事に回り始めたのは、実は研究発表会を控えた九月の終わり頃でした。明らかに学ぶ集団のステージが上がった背景には、そこに至るまでに、三年生の皆さんが、修学旅行で仲間とかかわり合い、失敗を乗り越え、スポーツフェスティバルでどの子にも寄り添い、みんなで悔しがったり、楽しんだりして、自分たちの主体性を高めてきた歴史があったのです。学級目標達成に向け、何ができて何が足りないかを明確にし、全員で高めようとする気運を創ることで、授業も高まり始めたのです。

三年生に面接試験の練習をするとき、「あなたの出身校はどんな学校ですか。」と質問すると、ほぼ全員の生徒が「小集団の学び合いが盛んな学校です。」と答えました。授業改革は、皆さんの生活の中に浸透していたことを感じます。

そんな皆さんは、全国学力学習状況調査で、本校の過去八年間で最もよい成績を残し、授業がよくわかる、楽しいという、学校評価の項目を昨年度より五％以上も上げ、自己肯定感の項目も向上させました。教育研究発表会では、西濃圏域のみならず、郡上市や滋賀県からの先生方も参観に来られ、皆さんの姿を高く評価していかれました。だけど、こんなエビデンスとは関係なく、皆さんは私にとって、本当にかわいい生徒であり、自慢の生徒でした。

三年生の示した「東安魂」。それは、挑戦し、自分たちの弱さと戦い、勝ち取ってきた歴史そのものです。学校教育目標「心豊かで、たくましい生徒」その目指す姿そのものです。私は、本校校長就任以来、学校教育目標を受け、「熱く温かく一人にかかわり続ける」と語り続けてきました。今ここで、皆さんに残す言葉も同じです。熱意と愛情をもって「一人」をあきらめずにかかわり続ける。その一人は、最終的には自分自身であることも伝えてきました。中学校生活で培った「温かい、豊かな心」と「熱い、たくましい心」をもち、周りに感謝しながら、次のステージでも「一人」にかかわり続けてください。どれだけ予測不可能

な未来であっても、どれだけＡＩが支配する世の中になっても、私たちは「人間」です。人と人との間で生きていきます。そのとき、「豊かな心」、「たくましい心」をもって、一人にかかわり続けられる人が、きっと愛され、重宝されることになるでしょう。中島櫂さんが伝統を引き継ぐ会で語っていました。「小集団交流は、お互いの学習効果を高めるためだけではなく、将来人とかかわるときに、相手に伝わるように話す方法など、人との上手なかかわり方を学ぶためにもなると考えています。」･･･皆さんには、その武器が備わっています。

そして忘れてはならないのが「自分」という一人にかかわり続けることです。自分の弱い心と闘ってください。どれだけ苦しくても、つらくても、自分のことをあきらめないでください。あなたのことに最後までかかわれるのはあなただけです。あなたは、他の誰でもない、あなたです。素敵な大人になってください。

また、一人でも多くの人が、日本に、世界に羽ばたくと同時に、この東安地区にも貢献できる「地域社会人」になってください。冒頭、東安地区は地図上にない地名であると話しました。現在の少子化の波の中、学校がその機能を維持し、生徒一人一人に力を付けていくためには、学校の統廃合は避けては通れない問題です。今後多くの学校が統廃合されることが予想されます。仮にこの名前がなくなったとしても、魂は人に宿ります。この地で、この学校で身に付けた「東安魂」は、消えません。これを胸に、人生の荒波に向かっていってください。止まない雨はありません。皆さんのこれからの活躍を期待しています。

最後になりましたが、卒業生並びに本日ご参列されたすべての皆様の、ますますのご健康とご活躍を心からお祈り申し上げ、式辞といたします。

令和六年 三月 八日

大垣市・安八郡安八町組合立東安中学校

校 長　　木 下 隆 一